

# 令和2年度 学校評価報告書【国立市国立第四小学校】

学校教育目標	◎よく考え進んで学ぶ子 ○自分も友達も大切にする子 ○正しく判断し行動できる子 ○体を鍛え最後までやりぬく子	重点目標	◎よく考え進んで学ぶ子
--------	---	------	-------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標		分析	改善策	学校関係者評価	
				中間評価	最終評価				
◎よく考え進んで学ぶ子	確かな学力の向上を目指す	学習規律の確立	発表の方法を工夫	「はっきりとした返事・立つ・です」ができる。 目標数値・・・90%	B	B	全体的に6割程度が肯定的な回答をしている。学年が進むにつれて、「はい・立つ・です」への意識が低くなっている傾向がある。	掲示物等も活用しながら毎時間の授業における学習規律の確認をしていく。できたことを褒めながら、姿勢やチャイム着席等と併せて指導を継続していく。	低学年の授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。「はい・立つ・です」がしっかりできていた。中・高学年は集中して授業に取り組んでいた。
			自分の考えを発表する機会の意図的な設定	「話す」「発表する」ことに意欲的に取り組む。 目標数値・・・90%	B	B	教職員・保護者の7割が肯定的な回答をしている。「安心して話すことができる」「しっかり母すことができる」授業づくりを目指して指導してきた成果の一端が現れている。	児童の興味・関心を高める授業作りを進め、児童との信頼関係をより深め、発表のしやすい環境作りを今後も工夫し、意欲を高めていく。	低学年の授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。中・高学年は集中して授業に取り組んでいた。発表の仕方がとても良い。
		授業改善	問題解決的な学習過程を重視した授業実践。	児童が「めあて」と「まとめ・振り返り」を意識して授業を受けている。 目標数値・・・90%	A	A	授業の「めあて」を児童と共に考え、提示することを95%以上の教員が毎時間心がけている。保護者アンケートからは、教室での授業参観が行われなかったためわからない、という回答が目立った。	どの教科・領域においても児童と共に「めあて」を作り、「まとめ」「振り返り」を大切に授業展開を行うことで、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	低学年の授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。中・高学年は集中して授業に取り組んでいた。
		学習習慣の確立	定期的な家庭学習による学習習慣の定着	児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。 目標数値・・・90%	B	B	全体的に80%以上が肯定的な回答をしている。しかし、教員の認識は約70%だったことから、児童と教員との間にずれがある。家庭学習の習慣確立のために分かりやすい方法を提示する。	学年間で宿題の量や内容を吟味し、定期的に宿題を出すことを継続する。また、家庭へのお知らせ方法を改善し、共に家庭学習の習慣を確立させていく。	どの児童も家庭学習を頑張っており取り組んでいる様子。学校からの家庭への要請も大事である。
		読書活動の充実	定期的な朝読書や読み聞かせを通じた、本に触れる機会の設定	本に触れる機会を増やし、多くの語彙や表現を獲得すると共に、文章を読解する力を養う。 目標数値・・・80%	A	A	概ね8割の児童が肯定的な回答をしている。これは図書担当・学校司書・非常勤教員が連携した学期ごとの読書週間や図書委員会児童による取組が功を奏したからだと考えられる。	体力向上につながる外遊びの声掛けは継続しつつ、読書週間のさらなる充実と新着図書の拡充に取り組んでいく。また学校司書との連携をさらに進める。	教師や保護者による読み聞かせ、読書マラソン等を行い、本に親しませる活動が行われていて評価できる。これからも続けて欲しい。
◎自分も友達も大切に ◎正しく判断し行動 ◎体を鍛え最後までやりぬく子	豊かな言語環境の整備を進める 思いやりに 大切に する教育の 推進する	「道徳の時間」の充実	言語環境の整備	時と場に応じた言葉づかいに対する児童の自己評価を80%にする。	B	B	昨年度から引き続き、概ね8割の児童が肯定的な回答をしている。教員の認識は約7割だったことから、児童と教員との間にずれがある。	教職員が模範となり、言語環境を整えていく。言語事項に関する指導を充実させる。また、「気持ちのよい言葉づかいがよりよい人間関係につながる」ことを感じ取らせる。	子ども同士の言葉遣いが気になるので、今後さらに指導を充実させ言語環境を整えてほしい。
			あいさつの励行	児童の自己評価による「あいさつ」の励行を90%にする。	B	B	昨年度より肯定的な回答をした学年が減少した。今年度は他者と距離をとることが多くなったためだと考えられる。また、「挨拶はできてきているが、自らすすんで行うまでは至っていない」という課題がある。	今後は、「気持ちのよい挨拶がよりよい人間関係づくりにつながる」ことをより意識させていく。 (挨拶推進運動のさらなる充実・学級指導での挨拶の啓発)	朝の挨拶がとても素晴らしいので、今後も指導を続けてほしい。教員も大きな声で挨拶し、範を示すべきである。
			実践力の育成	「思いやりのある行動ができる」児童(自己評価)80%を目指す。	B	B	昨年度より肯定的な回答をしている児童が増えた。これは、全て教育活動を通じて人権教育や心の教育の推進を図ってきた成果が着実に表れていると考えられる。	日頃から丁寧に児童理解を行うとともに、実生活に活かせる人権教育や道徳の授業を推進する。また、規範意識の向上に努めていく。	思いやりの心を育てるためには、家庭でも学校でも大人が範を示すべきである。
	健康への 関心と実 践力を高 める	体力の向上を目指す	規則正しい生活習慣の家庭への啓発	毎朝、必ず朝食をとる自己評価を90%とする。	A	A	概ね9割の児童が朝食を食べてから登校できている。これは、基本的な生活習慣を身に付ける上で、学校・家庭・地域が緊密に連携できているためと考えられる。	保護者との連携を強化する。また、学校でも日々の生活指導や保健指導を通して、児童が健康で豊かな学校生活を過ごせるように指導・支援していく。	朝食をしっかりとって登校していることは評価できる。今後も家庭への啓発を続けて欲しい。
			健康的な体作りや体育授業の充実	体幹の強化…正しい姿勢で座ることのできる児童を90%にする。	B	B	児童は概ね7割が肯定的な回答をしており、保護者や教職員の意識も高まっている。教員が魅力ある授業を行っている成果と思われるが、今後は9割を目指したい。	コアディネーショントレーニングや正しい姿勢の教室掲示を継続して、「姿勢のよさが体力向上や自身の健康につながる」ことが実感できるよう指導する。	低学年の授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。中・高学年はやや姿勢が良くなかった。

達成状況の指標 A: 90%~100% B 80%~90% C ~80%